

開催年月日 令和3年11月9日（火）  
 質問者 日本共産党 宮川 潤 委員  
 答弁者 感染症対策局次長 古川 秀明  
 感染症予防対策担当課長 吉田 亮輔

質問内容	答弁内容
<p><b>三 インフルエンザワクチンについて</b></p> <p><b>（一）供給量とペースについて</b></p> <p>昨年度は、結果的にインフルエンザの流行はなかったものの、ワクチンの卸から医療機関に供給されず、接種を希望する人が、供給されずというのは、なかなか供給されずということですが、接種を希望する人が医療機関で品切れと言われる事態が相当数あったものと認識しております。</p> <p>昨年度と今年度の比較で、ワクチンの供給量はどうか。</p> <p>供給のペースですが、11月第1週および12月第1週について、明らかにしてください。</p> <p><b>（二）道の役割について</b></p> <p>昨年が3,274万本、今年が2,818万本ということで、流通のペースも遅いということでありますから、不足して住民の方から苦情が出るのではないかとというふうに大変心配しております。</p> <p>例年、道から安定供給方針が出されています。今年度は、とくに供給量が少ないことによる混乱を避けるために道の役割が大きいものと考えますけれども認識はいかがですか。</p> <p>安定供給方針で、医療機関に呼びかけたとしても、接種希望者が殺到した場合の混乱は避けられません。安定供給方針を出したうえで、なお混乱を回避するために積極的な役割を發揮すべきと考えますが、いかがですか。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>道から医療機関、卸などに協力を求めているということですが、接種を希望する人が医療機関に殺到したらもうどうしようもないと思います。ですから、道民全体に対して、ワクチンの供給ペースが遅いことなどを周知する、そういう道からの呼びかけが重要であるということを指摘いたします。</p>	<p><b>【感染症予防対策担当課長】（ワクチン等予防対策班）</b></p> <p>インフルエンザワクチンについてであります。国から示された今年の供給予定量は、全国分として、1mL換算で、2,818万本とされており、平成8年以降で最大の使用量となった昨年の3,274万本と比べて少ないものの、一昨年までの例年の使用量に相当する量は、供給される見込みでございます。</p> <p>また、供給時期につきましては、11月第1週までに約2,000万本、12月第1週までに500万本程度が段階的に供給され、12月第3週までに全量が供給される見込みでございます。</p> <p><b>【感染症予防対策局次長】（ワクチン等予防対策班）</b></p> <p>道の役割についてでございますが、本年は、昨年と比較しますと、供給量が少なく、供給ペースも緩やかなことから、道では、例年以上にワクチンの在庫量や流通状況を注視する必要があるものと考えており、9月には「インフルエンザワクチン安定供給方針」を定め、医療機関に対しては、本年のワクチンの供給ペースを考慮した上で、早期、多量の納入を控えるよう、また、卸売販売業者に対しましては、必要に応じて地域間及び営業所間の融通などにより、円滑な供給に努めるよう協力を求めているところでございます。</p> <p>道としては、この方針の下、卸売販売業者のワクチン在庫量や流通状況などを適時・適切に把握いたしますとともに、医師会や卸売業協会等の関係団体と緊密に連携をし、接種希望者や在庫状況などの情報共有を図りながら、インフルエンザワクチンの安定供給に、引き続き、努めてまいります。</p>